



会報

東京都中学校長会

平成 29年1月17日

第 387 号

発行 東京都中学校長会
会長 常盤 隆
〒105 港区西新橋 1-22-13
-0003 全日本中学校長会館202号
電話 03 (3504) 8705
FAX 03 (3504) 8706

〈巻頭言〉

さあ 読書をしましょう！

副会長 矢口 仁
(中野区立中野中学校長)

平成29年がスタートしました。本年は、「中学校教育70年記念第68回全日本中学校長会東京大会」が開催される年です。「チーム東京都中学校長会」が一丸となって、大会成功へ向かいたいと思います。皆様のご協力、よろしくお願いいたします。

さて、先月、国際学習到達度調査の結果が公表されました。読解力が4位から8位になったとのこと。今回からコンピュータ操作による解答方式に変わり、生徒が不慣れなことも要因として挙げられましたが、文章から情報を読み取り、自分の考えを記述する力などに課題が見られることは他の調査からみても明らかです。

読解力低下の一因として、生活体験の少なさや読書量減少による語彙の少なさが指摘されています。昨年の全国学校図書館協議会の調査によると、中学生の1か月の読書数は4.2冊、不読率（1か月に1冊も本を読まない生徒の割合）は15.4%となっています。20年前の1.9冊から比べると倍増ではありますが、小学生の11.4冊と比べると物足りなく感じます。（単純な比較はできませんが…。）

読書の意義は、「子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」（子どもの読書活動推進に関する法律 第2条）です。

やわらかい言葉で言うと、「本は文字ではない。本は人じゃ。開けば、触れることができる。他の人の考えに。その人の目を見た、世の中の、人生のあらゆることを教えてくれる。」（NHK大河ドラマ『花燃ゆ』から）となるのでしょうか。

私は、読書こそが主体的な学びの基礎であり、読書量の多い子どもたちは国語以外の教科でも

力を伸ばすことができると

思っています。スポー

ツをする人間は「走

る」ことによってス

タミナをつけ、下

半身を強化して自

分の種目に役立て

ます。それと同じ

ように、「読む」こ

とを増やすと、読む

スタミナ（読解力）が付き、

語彙や知識が増えていき、他の教科にもよい影響を与えます。ですから、読書はとても重要だと考えるのです。

他にも気になる数字があります。教員の読書量についてです。勤務が10年未満の教員で、年間読書10冊未満という教員が68.1%、勤務11～20年で59.6%とありました。（『残念な教員』林純次著）多忙化と言われる教員ですが、この数字は看過できません。

私が小学校3年生の時、担任の先生が夏休み前に「十五少年漂流記」の紹介をしてくださいました。無人島での少年たちの冒険記で、その紹介を聞いていると興味がわきあがり、夏休みに読んでみました。生まれて初めて本に熱中したことを覚えています。

生徒にとって身近な教員がよい読書人となり、読書のよさを生徒に伝えていくことは、大切な文化の伝承であると思います。

今、アクティブラーニングの必要性が問われる時代となっています。そのベースは主体的な「読書」だと信じています。

豊かな学びのため、豊かな人生のために、さあ、みんなで読書をしましょう。



11月 区市等校長会長連絡会報告

12月 地区代表者連絡会報告

■11月 区市等校長会長連絡会報告

日時 平成28年11月15日(火) 15時～17時

場所 新宿コズミックセンター

1 会長あいさつ

- 第67回全日本中学校長会研究協議会宮城大会(10月20・21日)の報告とお礼
閉会式にて次年度の開催内容を紹介。
- 東京都中学校長会研究大会への出席と対応について
11月22日国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催。一人でも多くの出席と働きかけを。
- 中学校教育70年記念第68回全日本中学校長会東京大会準備委員会からのお願いについて
約3600人が参加予定。会員の皆様の協力を。
- 連絡・報告事項
第73回大都市中学校長会連絡協議会京都大会の報告とお礼
11月10日・11日京都市内にて。都からは、平岡盛仁校長(調布中)が発表。

2 行政説明

- 今後のオリンピック・パラリンピック教育の推進について
東京都教育庁指導部オリンピック・パラリンピック教育推進担当課長 荒川 元邦 様

3 連絡・報告事項

- (1) 役員会より
第73回大都市中学校長会連絡協議会京都大会内容の報告
- (2) 各部・各委員会より
 - 【総務部】
・平成29年度活動方針案の各地区の意見集約を1月6日までに。
 - 【教育対策部】
・予算、施設、人事等に関するWebアンケート調査を1月13日までに。
 - 【研究部】
・11月22日の研究大会への参加の要請
 - 【進路対策委員会】
・都立高校志望予定調査について
12月14日を調査基準日とし、15日に各地区のとりまとめを
 - 【修学旅行対策委員会】
・平成30年度修学旅行連合体輸送抽選結果の連絡は11月25日

4 情報交換

- 各地区中学校長会規約等における再任用校長の扱いについて

5 事務局より

- ・諸費用の納入確認依頼、平成29年度都校長会関係年間行事予定の提示、70年記念大会負担金の要請。

■12月 地区代表者連絡会報告

日時 平成28年12月8日(木) 15時～17時

場所 新宿コズミックセンター

1 会長あいさつ

- 東京都中学校長会研究大会協力のお礼
生徒指導部、研究部アンケート回収率ほぼ100%。
- 中学校教育70年記念第68回全日本中学校長会東京大会について
 - ・会場下見(浅草ビューホテル・東京国際フォーラム)報告
 - ・第5回準備委員会(12月13日)予定
- 平成28年度東京都校長選考及び管理職選考等の結果及び平成29年度からの昇任者受験資格等の見直し案について
- 指導部との教育連絡会について(11月24日)
- 平成28年度東京都修学旅行委員会について
 - ・都庁第一本庁舎にて開催(11月18日)
- 平成29年度東京都中学校長会定期総会・研究発表会に伴う第1回拡大委員会について
 - ・品川区立荏原第六中にて開催(12月12日)

2 行政説明

- 今年度の東京都教職員研修センターにおける研修の受講並びに今後の研修に向けて
東京都教職員研修センター企画課統括指導主事 小須田 哲史 様
- ・「マイキャリアノート」について(平成29年4月開始予定)
- ・中学校英語研修について等

3 連絡・報告事項

- (1) 役員会より
 - ・第2回教育庁指導部との教育連絡会報告
- (2) 各部・委員会より
 - 【総務部】
・平成29年度活動方針案の地区改善案について
 - ・来年度の定期総会・70年記念大会への協力を
 - 【会計部】・退職記念品(ペアグラス)について
 - 【教育対策部】
・予算、施設、人事等に関するアンケートに協力を
 - 【研究部】
・アンケート調査協力へのお礼(回収率100%)
 - 【生徒指導部】
・アンケート調査協力へのお礼
 - ・第4回研修案内(29年2月16日、自殺防止等)
 - 【進路対策委員会】
・都立高校志望予定調査への協力を
 - ・成績一覧表の作成を適正に
 - 【修学旅行対策委員会】
・平成30年度修学旅行について

4 情報交換等

- 今年逝去された現職会員への黙祷
- 人事異動について

5 事務局より

第73回 大都市中学校長会連絡協議会京都大会

平成28年11月10日（木）・11日（金）

第73回大都市中学校長会連絡協議会京都大会が、ホテルグランヴィア京都で開催された。

大会の趣旨である「大都市のもつ中学校教育にかかわる諸問題について、情報交換、研究協議を行い、その解決の方途を探りながら、各都市における中学校教育の充実・発展を期する。」に基づいて活発な協議が行われた。

[第1日]

1 開会式

- (1) 開式のことば (2) 国歌斉唱
- (3) 大会会長挨拶
京都市立東山泉中学校 校長 村岡 徹
- (4) 来賓祝辞 (5) 来賓紹介
- (6) 祝電披露 (7) 閉式のことば

2 分科会

- 第1協議題：調査報告、話題提供、意見交換、協議
- 第2協議題：調査報告、話題提供、意見交換、協議

3 会長会

挨拶、自己紹介、協議、情報交換、事務連絡

[第2日]

1 分科会

- 第3協議題：調査報告、話題提供、意見交換、協議

2 全体会

分科会報告、会長会報告、大会宣言

3 閉会式

会長挨拶、次期開催都市挨拶

【分科会協議主題及び提案都市】

(1) A分科会

「学校経営上の諸問題に関する内容」

- 第1協議題（話題提供都市：、北九州市、京都市）
学校経営の組織・管理・運営等に関する現状と課題



- 第2協議題（話題提供都市：静岡市、京都市）
学校評価と評価結果の活用に関する現状と課題

- 第3協議題（話題提供都市：札幌市、京都市）
学校経営を支える人事管理・人事異動の現状と課題

(2) B分科会

「教育指導上の諸問題に関する内容」

- 第1協議題（話題提供都市：新潟市、京都市）
教育課程の実施と管理に関する現状と課題
- 第2協議題（話題提供都市：東京都、京都市）
新しい時代に求められる資質・能力の向上を目指した指導の現状と課題
- 第3協議題（話題提供都市：横浜市、京都市）
特色ある学校づくりに関する現状と課題

(3) C分科会

「大都市特有の諸問題に関する内容」

- 第1協議題（話題提供都市：名古屋、京都市）
生徒指導に関する現状と課題
- 第2協議題（話題提供都市：川崎市、京都市）
中学校における人権教育・進路指導に関する現状と課題
- 第3協議題（話題提供都市：岡山市、京都市）
開かれた学校づくりとPTA活動・地域との連携の在り方

大会宣言

今日、わが国は少子高齢化、グローバル化の進展などによる急速な変化の中にあり、また、大震災や大きな自然災害に度々見舞われ、深刻な課題が山積している。中学校教育においても、いじめや不登校、ネットトラブルなどの解決・防止などに加えて、いわゆる障害者差別解消法の施行による更なる特別支援教育の充実、道徳教育の教科化や防災教育の一層の推進など、多くの教育課題への取組が求められている。

私たちは、中学校教育の意義と責務を真摯に受け止め、生徒一人一人の人格の完成を目指し、未来を切り拓く豊かな人間性と創造性を備えた人材を育てるための学校づくりに総力を挙げて取り組まなければならない。そのために、これまでの教育の成果を踏まえつつ、子どもたちに「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和と、社会を「生き抜く力」をはぐくむ教育を一層推進しなければならない。

また、平成29年より実施される指定都市への県費教職員給与と負担等の移譲により、移譲後の勤務の諸条件の検証等、大都市中学校長会の責務は、一層重要となる。

大都市中学校長会は、互いの信頼と連携を深め、今日的教育課題に積極的に取り組むとともに、21世紀をたくましく生き抜く豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成に努めることで、保護者をはじめ国民の期待と信頼に応えたい。

ここに第73回大都市中学校長会連絡協議会京都大会にあたり、下記の事項を決議し、その実現を期する。

決議

- 一、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に徹し、平和であたたかな未来社会を切り拓き、「生き抜く力」をはぐくむ教育を推進する。
- 一、次期学習指導要領の趣旨を踏まえ、社会に開かれた特色ある教育課程を編成し、確かな学力の向上、豊かな心と健やかな体の育成に努める。
- 一、生涯学習の視点に立ち、将来の自己実現のための資質や能力、及び、望ましい勤労観・職業観の育成を目指すキャリア教育の推進に努める。
- 一、教育の今日的課題に即した研修の充実を図り、教職員の資質・能力の向上に努める。
- 一、家庭・地域・関係諸機関との連携を図り、相互の連携・協力を深め、学習や生活の基盤づくり、規範意識の育成に努める。
- 一、幼・小・中・高・特別支援学校の接続や連携を視野に入れた創意工夫ある教育活動を進めるため、学校経営・運営の改善を図り、信頼に応える開かれた学校づくりに努める。
- 一、災害等の危険に際して自らの命を守り抜くために、過去の経験を教訓として、安全・防災教育の推進に努める。
- 一、大都市特有の教育課題の解決を期し、教育諸条件の整備と充実に努める。

平成28年11月11日 第73回大都市中学校長会連絡協議会京都大会

平成28年度 東京都中学校長会研究大会

- 日 時 平成28年11月22日（火）14時開会
■場 所 国立オリンピック記念青少年総合センター・大ホール（渋谷区）

■概要

- 1 開会のことば 岩永 章 副会長
- 2 国歌斉唱
指揮 風見 章 校長（杉並区立泉南中）
伴奏 荒川 徳子 校長（清瀬市立清瀬第二中）
- 3 会長挨拶 常盤 隆 会長
- 4 来賓祝辞
東京都教育委員会教育長 中井 敬三 様
（代理 東京都教育庁指導部義務教育指導課長 大和 義行 様）
- 5 来賓紹介
- 6 研究発表 司会 上原 一夫 研究部長
〔主 題〕「教育課程及び学校経営の実施・改善
における課題と対応」

【第一部会】

「教育課程の改善・充実に資する内容の調査研究」

【発表者】 新村 紀昭 研究部副部長

【調査の意図】

現行の学習指導要領が定着した今年度の教育課程編成において、重視している基本的な考え方や教育内容、編成上の課題、外国語教育、道徳教育の実施状況などの経年変化を見た。また、今年度から全校実施となったオリンピック・パラリンピック教育、基礎体力向上策「アクティブプランto 2020」の実施状況について、さらに学習指導要領改訂のキーワードにもなっている「アクティブ・ラーニング」や「カリキュラム・マネジメント」において、学校経営の視点も踏まえながら明らかにすることとした。

【調査の内容】

教育課程及び学校経営の実施・改善における課題と対応

【調査の実施状況】

実施期間 平成28年8月2日～9月2日

実施方法 都内公立中学校の全校長を対象に、東京都中学校長会ホームページからアンケートの回答

回答状況 612校（回収率99.7%）

【研究のまとめ】

(1) 教育課程及び学校経営の実施・改善における課題と対応について

現行の学習指導要領全面実施から5年目を迎え、重視している「教育課程編成の際の基本的な考え方」について大きな変化は見られず、学力向上を重視していることも同様であった。また、「基礎的・

基本的な知識・技能の習得のための取組」、「思考力・判断力・表現力を育てるための取組」についても昨年同様の結果となった。その中で「問題解決的な学習の導入」や「ICTを積極的に活用した授業の推進」の増加が見られた。「外国語教育の充実に向けての取組」については、東京方式のガイドラインに示された取組が進んでいることが裏付けられ、それに伴い、打ち合わせ等に要する時間の確保や新規採用教員の増加に伴う新たな課題も見られた。「道徳教育の充実に向けた取組」では、「道徳教育推進教師がリーダーシップをとって計画作成や指導案準備をすること」や「校内研究を行うこと」が昨年度より増加し重視されていた。

(2) オリンピック・パラリンピック教育の推進について

今年度重視する取り組みとしては、「環境（持続可能性）」に取り組む学校が他3つの取り組みに比べて少ないことが課題である。各テーマで取り組む4つのアクションについては「学ぶ」「する」を選ぶ学校が半数近くあり、偏りのある状況が見られた。重点的に育成する資質とプロジェクト活用状況については「アスリート等との直接交流（未来プロジェクト）」が最も多く、「特色ある取り組み」としても挙げられていた。35時間の年間指導計画を立てる際に関連させる教科領域については、「保健体育科」とそれ以外では社会科、英語科、総合的な学習の時間の回答順だった。オリンピック・パラリンピック学習読本の活用については、多くの学校が手引きを参考にしていることが分かった。

(3) 総合的な子供の体力向上策「アクティブプランto 2020」への取り組みについて

体力テストは5割の学校が6月に実施した。体力向上に向けた取組では、7割の学校が体育実技の授業の中で年間を通じて継続的に体力向上に向けた取組を実施している。体育的行事の実施状況は、ほぼすべての学校が「運動会・体育祭」を実施し、実施時期は5月と6月で9割に達し春に集中している。組体操の実施状況は、実施していない学校が27年度と併せて全体の8割弱になった。組体操以外で事故事例が多い「むかで競争」を9割以上の学校が実施している。アクティブスクールとしての取組については、「体力テスト」の実施時期や調査結果を重視している。「部活動」による体力向上を重視している学校も多かった。

(4) 「アクティブ・ラーニング」への取組について

「アクティブ・ラーニング」を取り入れた指導をしている教科は、国語、英語、理科、社会、総合的な学習の時間が多かった。実技教科では実施率が

3割にとどまり、実技指導の中で取り入れることに困難を感じていることが分かる。取組内容については、現行の学習指導要領で重視している学習活動が着実に実践されていることが分かる。逆に、評価に関わる内容の実施率が低いことが課題である。新学習指導要領の内容や指導方法などについて校内研修等の充実が望まれる。

(5) カリキュラム・マネジメントの実施について

学校経営において「生徒・地域の実態調査結果等に基づく教育課程」や「PDCAサイクルに基づく教育課程」を編成・実施している学校は5割強である。また、地域などの外部の教育力を活用した教育課程の編成・実施についても約3割の実施率に止まり課題である。

【第二部会】

「チームとしての学校の在り方についての調査研究」

【発表者】 川崎 純一 研究部副部長

【調査の意図】

平成27年12月に中央教育審議会より「チームとしての学校の在り方と今後の改善方法について（答申）」が出された。そこで、東京都中学校校長会研究部では、都内64校の抽出校を対象として調査を行い、現在、どのような形で「チームとしての学校」が構成・運営されているのか、また、運営上の課題などについて直接的に情報収集することで、実施や改善に向けた方策を研究し、「チームとしての学校の在り方」について学校における具体的な提言をすることを目的として本研究を進めることとした。

【調査の内容】

チームとしての学校の実態と課題について

【調査の実施状況】

実施期間 平成28年7月20日～8月5日

実施方法 都内公立中学校校長会地区代表校の校長または地区代表校長から推薦された中学校の校長

回答状況 64校（回収率100%）

【研究のまとめ】

(1) スタッフについて

現在配置されているスタッフについて、コミュニティ・スクール、一般校の違いはあまり見られない。配置を希望するスタッフについても同様である。前掲の答申を踏まえると、スクールソーシャルワーカー、ICT支援員、学習支援員、特別支援教育支援員等の配置の要望が高くなることが考えられ、活用の仕方が課題となる。

(2) マネジメント強化のための方策・工夫

マネジメントの強化については、前掲答申の中にある「管理職の適材確保」「主幹教諭制度の充実」「事務体制の強化」に沿った回答である。コミュニティスクールと一般校を比較すると、前者では「事務職員の職務の在り方、校長補佐機能の検討」の割合が高く、反対に「教員や専門スタッフの人材育成」は後者の一般校での割合が高い。共通するも

のとしては「校長、副校長の処遇改善」、「副校長の職務内容の軽減」「主幹教諭・主任教諭の人材育成」がある。上記の課題への対応で、新たな組織を作り活用している学校や、外部に目を向けて連携を強化、人材発掘などを行っている学校も見られる。

(3) コミュニティ・スクールについて

都内公立中学校615校中97校がコミュニティ・スクールとして運営されている。前掲答申やいわゆる「次世代の学校・地域」創生プランにもコミュニティ・スクールの推進・加速が求められている。しかし、外部人材の発掘・確保、限られた予算内での運営、外部と学校との調整など運営上の課題もアンケート結果に示された。これらの課題解決が今後求められる。

(4) 学校を支援する取組について

支援団体としては、コミュニティ・スクールには学校運営協議会があり、一般校にも同様の団体が多く存在している。学習支援、環境整備、部活動支援など取組も共通している。どちらも人材確保と育成、組織についての内容が運営上の課題となっている。

(5) まとめ

今回の調査によって、コミュニティ・スクールであるなしに関わらず、外部連携に工夫を凝らしている学校が多くあることがわかった。共に学校単独で行っていた学習活動や環境美化活動について学校を取り巻く外部組織・団体を巻き込んで実施する事例が多い。これらの実践例を参考に「チーム学校」という発想をもち、学校運営の充実に努めていく必要がある。

7 質疑応答

8 活動報告 「生徒指導における現状と課題」

【発表者】 大石 光宏 生徒指導部副部長

9 講評

東京都教育庁指導部義務教育指導課長

大和 義行 様

10 閉会のことば

松丸 晴美 副会長



詩に興り 礼に立ち 楽に成る

府中市立府中第三中学校長 森岡 耕平

平成28年が暮れようとしている。振り返れば管理職として15年目の年の瀬を迎える。

次年度の学校経営計画、人事構想を思い浮かべ、年間行事予定表のコマを確認しながら、三年生の面接練習に向かう。校舎の窓から望む富士山はいつのまにか雪化粧し、校庭で部活動に取り組む生徒たちの元気な姿もあつという間に夕闇に染まる。

私は、出張などない日は一日6時間の時間割に合わせて、50分の仕事、10分の校内巡回を一日の動きの区切りとしている。

もちろん50分の仕事の中味は、校長業務だけでなく、面接、授業観察、各種会議が入ってくる。突然の来客や生徒指導が飛び込むこともある。その切れ目の10分間の休み時間に校内をうろうろする。いろいろなことに気付けることがある。授業中では見えない生徒の様子を何となく感じとることができる。

今年も、道徳の教科化、オリンピック・パラリンピック教育、そして学習指導要領の改訂と大きな教育の潮流が教育現場に押し寄せた。

アクティブ・ラーニング、カリキュラム・マネジメント、新たな言葉が次年度教育課程の編成を方向付けていく。学力向上、深刻化するいじめや自殺問題への対応等、喫緊の教育課題を抱え、何を見て、どこに向かって教育を展開すべきか、学校がどうあるべきか、大いに迷う。

個々の現象に振り回されず、そこにある教育の根幹を捉え、どう迫るか。

それを考えるとき、生徒の姿に、豊かな言葉(詩)がその内面を育んでいるか、秩序(礼)を大切にしたい関わりが広がっているか、芸術

や音楽(楽)に親しみ人として調和のある生き方ができているか。孔子の「詩に興り 礼に立ち 楽になる」を思うのである。

主体的な学びも、対話的な学びも、深い学びも言葉を大切に、秩序を重んじ、調和を図るところに自ずと広がり、こみ上げてくる学びではないかと考える。

教育が、つまりは学校が多様な課題に直面し、次々と新たな取組を展開していくように受け止められるが、課題解決に向けた教育の本質に迫る力を獲得しなければ、次々に新たな事象に追われることになってしまう。私自身、振り返ればそうになっていたことを深く自省する。

私は、教師としてこれまで生徒に向き合ってきた教育体験、また何より私が一人の親として我が子に向き合ってきた子育て体験を通じて、一つの生命に関わる重大さ、厳粛さ、おのれ自身の無力さを自覚し、そのことを共有できる教師集団と共に学校経営を模索したい。

近未来の社会に今日の創造を越える変革や混乱がもたらされ、悲しみや怒りに晒されたとしても、人として生きていくことに喜びを見出していくことができるよう社会経済の発展に教育が貢献するための学校教育を大切にしながら、教育のために社会経済が学校教育を支える基盤を整えたい。

ほっとはく息が白く宙に消える。今年もいろいろなことがあった。この仕事を続ける時間も残りが見えてきた今、ぼんやり考える。今日も10分間の生徒の姿を見ながら…。

「十六年は一昔」のセリフから

豊島区立池袋中学校長 堀 利光

タイトルですぐにわかった方はかなりの歌舞伎通の方とお見受けします。昨年十月の歌舞伎座「八代目中村芝翫襲名披露十月大歌舞伎」でも上演された『一谷嫩軍記 三段目 熊谷陣屋』の中の有名なセリフです。

話の内容は、源平合戦のさなか、源義経の家来熊谷次郎直実は、敵軍の平敦盛の命を助けよとの密命を受けます。やむなく身替わりにしたのは、直実の息子小次郎でした。子を失い、生きる意味を失った熊谷は、墨染めの衣をまとい、出家の意思を明らかにします。息子小次郎が生まれてからの十六年の月日が夢のように思われるとつぶやきながら、一人戦場を離れ、悄然と去って行く、というものです。その幕切れに、主人公熊谷次郎直実が冒頭のセリフ「十六年は一昔。ああ夢だ、夢だ」と嘆き、花道を引っ込みます。

初めは人形浄瑠璃として、後に歌舞伎でも人気狂言の一つとして上演を重ねています。

さて、ここまで長々と趣味の歌舞伎の話をしてきましたが、まさに私の教職人生三十有余年も気がつけば、あっという間の気がします。

新規採用教員として着任した学校は都内有数の荒れている学校で名前を言えば誰もが「ああ、あの学校ね」と認める学校でした。そこで六年間二回り担任をした経験が長い教員人生の骨格を作ったと思っています。もちろん、その時は無我夢中というか、最近の中学生は元気がいいなあ、くらいに構えていたのが逆に良かったのでしょうか。

また、管理職になったのも偶然の産物というか、当時の校長先生が勧めてくださった際

も、「私はその気は全くありません」と固辞しました。しかし、「最初はみんな同じようなことを言うのだから、ものは試しで受けてみなさい」と半ば強制的にひきずりこまれました。

さらに、管理職になってからは教頭・副校長として十年間で八人の校長先生方に指導していただきました。単純計算で、お一人の校長先生と一年三ヶ月のおつきあいということになります。ここでも、それぞれの校長先生の学校運営を学ばせていただきました。校長先生によっては当然力の入れ具合に違いがあり、重視している点も微妙に違います。もちろん、得手不得手もあります。校長先生のスタイルによって自分を変えたり、合わせたりしました。(カメレオンのように…)

やはり、この時の経験が今の校長としての基盤を作ったと強く感じています。

随想ということで、とりとめない文章を書きましたが、改めて我が身を振りかえると、

- ・下町の商売屋の末っ子で、自分で言うのも何ですが社交的で人なつこい性格のため、来客や地域・保護者対応を苦としない。
- ・困難に直面した時も「明けない夜はない」と自分に言い聞かせ（どこか楽天的な余地を残して）乗り切る。
- ・嫌なことはなるべく流す・よける・忘れるで、後々までこだわらない。

などが幸いして、ここまで長続きできました。もしかしたら、教員の資質として大切なものがこの中に含まれていたのかもしれないと思う今日この頃です。

【三宅島の成り立ち】

三宅島は、東京から南へ約180kmにある伊豆諸島の中に位置する島で、島内には縄文時代などの遺跡が点在し、この頃から人が住み三宅島の歴史が始まったと言われています。

平成12年の噴火による全島避難が平成17年に解除され、その後平成19年4月に3校が統合され、新生三宅中学校が誕生しました。

三宅村の人口に占める高齢者の割合は非常に高く、今後の発展には、島の伝統や文化を生かし新たな三宅島の文化を育みながら、豊かな自然環境の中で、島の宝である子どもたちを育成することが不可欠です。三宅島の火山・海・森の織りなすダイナミックな自然と別名バードアイランドと言われるように、人と野鳥の距離が近いことで知られています。また、国内最大級であるボルダリンク施設も閉校した坪田中学校体育館に設置し、観光業にも力を注いでいます。ぜひ一度、三宅島を訪れてみませんか。

【三宅村教育委員会の教育目標】

- ・互いの人格を尊重し、困難な中であっても助け合う思いやりと規範意識のある人間
- ・広い視野をもち、積極的に社会に貢献しようとする人間
- ・自らの個性と創造力を伸長し、三宅島の文化を発展させる意欲をもつ人間

とし、学校、家庭、地域がそれぞれの責任を果たし連携していく。

*具体的な主要施策は1から23まで23項目ありますが、その中からいくつかご紹介します。

○基礎的・基本的な知識、技能の確実な定着
生徒一人一台のiPadの貸与、村学力調査の

実施（年間2回）、三宅スタンダード

（小・中学校で共通した学習、生活、家庭での約束やきまりを指導する）の実践、6校時終了後に「基礎学力の時間（15分）」を設定するなどを行なっています。

○保・小・中・高の連携による教育活動の推進
島内には保育園、小学校、中学校、都立高校が1園1校あり、教育課程の連携や人的交流等を組織的、計画的に行い、魅力ある学校づくりに努めています。

○自然との共存を目指すと共に、郷土理解学習の推進

三宅島の歴史、文化、自然に触れる機会を充実させて、郷土に対する愛着や誇りを育むため、シーカヤック体験、郷土芸能の伝承、外部の人材を講師に招き（気象庁、観光協会、漁協、日本野鳥の会の方々など）、総合的な学習の時間の充実を図っています。

*その他にも、村独自の「教育研究員制度」があり、小中の連携を図りながら課題を設定し、研究や検証授業を行い、成果の発表を行なっています。

*さらに都の研究指定を受け、研究、研修に励み、島しょ地区であっても、今日的な教育課題に取り組んでいます。

（今年度の実践計画）

- ・道徳教育推進拠点校
- ・日本の伝統文化のよさを発信する能力・態度の育成事業
- ・オリンピック・パラリンピックの「夢・未来」プロジェクト実施校（YOKOSOプログラム）